

泊発電所における ALARA 活動について

高畑 翔太

泊発電所、北海道電力

Email: H2003041@epmail.hepco.co.jp

泊発電所でこれまで取り組んできた ALARA 活動について紹介する。

泊発電所での線量実績は初回定期検査時から 0.5 人・Sv 程度で推移している。

これは、泊発電所は日本国内の中では後発の原子力発電所であり、設計段階から他プラントの被ばく低減対策を積極的に取り入れた結果によるものと考えられる。

泊発電所では主に次のような被ばく低減対策を実施している。

- ①プラント運転中の垂鉛注入
- ②作業を実施する際の PDCA サイクルの適用
- ③発電所内での会議
- ④共通エリアの仮設遮へいの実施

管理区域内にて作業を実施する際には、作業担当部門と放射線管理部門にて PDCA（計画、実施、評価、改善）サイクルを適用し、情報共有および作業方法の改善を図っている。

発電所内での会議については、所内 ALARA 会議、放射線管理会議、安全衛生協議会、ALARA ミーティング等を実施し、発電所内全体および協力会社に放射線業務従事者の被ばく状況や被ばく低減対策等について検討・審議・周知を実施することで、情報共有と被ばく低減対策の有効性の確認等を行っている。